

Bluff Archives Monthly News

2019年1月

発行 NPO 法人横浜山手アーカイブス

スプリング・バレー・ブリュワリー

右は2018年に出版された『高精細画像で蘇る150年前の幕末・明治初期日本』に掲載された写真である。画面の中央に「スプリング・バレー・ブリュワリー、コーブランド経営」と描かれた看板がのっている建物が写っている。オーストリー出身のカメラマン、モーザー（Michael Moser）が撮影。モーザーは弱冠16歳で来日し、ジョン・レディ・ブラック（J. R. Black）が創刊した写真入りの新聞「THE FAR EAST」のカメラマンでもあった。明治初期の山手居留地にあった小さなビール醸造所（123番地）を写した大変貴重な1枚である。



Credit : Michael Moser / Kammerhofmuseum Bad Aussee / Imagno / picturedesk.com

スプリング・バレー・ブリュワリーは、ウィリアム・コーブランドが興したビール会社で、1870年のブラフ・ディレクトリには Lot No.122-123 に William Copeland（ウィリアム・コーブランド）と記載がある。1874年9月の「外国人へ貸地取調概表」によると105番地乙、122番地、123番地のほかに天沼である240番地もコーブランドが借受人である。105番地乙、122番地、123番地は現在の北方小学校に隣接するキリン公園付近の場所であり、240番地は小学校校庭付近、撮影した場所は、校庭西脇の道からであろうと思われる。

1988年、123番地のディレクトリの記載はジャパン・ブリュワリーに変わるが、コーブランドとスプリングバレー・ガーデンズは隣の122番地に、1885年から1893年まで記載されている。

一方『法規分類大全』によると、1880年（明治13年）末、火事で焼けた北方村字天沼608番地、609番地（後の山手270番地で240番地隣地）を神奈川県が買い上げ、コーブランドに貸渡している。コーブランドは、居留地中央部東端一帯で、ビールを製造、供給していた。山手居留地は居留外国人住宅地であると同時に、外国人の生活必需品製造の場所でもあった。

余談ではあるが『横濱繁昌記』にでてくるコーブランドの弟子久保初太郎は、居留地周縁の諏訪町出身で、のちに桜田ビールの醸造技師となり、大黒ビールのラベルにその名を残している。また山手223番地の庭先には、キリンビール馬車馬の水飲み用であったと伝わる大きな鑄鉄製のかめが置かれているが、その経緯は明らかでない。

折しも2月11日はコーブランドの命日であり、毎年、株式会社キリンビール関係者によって、横浜外国人墓地にて墓前祭が執り行われている。（S）

<参考文献>

『高精細画像で蘇る150年前の幕末・明治初期日本』東京大学史料編纂所古写真研究プロジェクト編 2018年 洋泉社

『法規分類大全 第25 外交門四』内閣記録局編 復刻版 1977年 原書房

『横濱繁昌記』横濱新報社著作部編 1903年

『横浜もののはじめ考第三版』横浜開港資料館編 2003年

『神奈川県史料第7巻外務部2』「居留地」「外国人へ貸地取調概表」神奈川県立図書館 1971年

『サッポロビール120年史』サッポロビール株式会社発 2006年

ブラフアーカイブス = 横浜山手外国人居留地データベース = <http://www.bluff.yokohama>